

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 景気ウォッチャー調査(2009年4月)
 ~4ヶ月連続でDIが改善~

発表日 2009年5月13日(水)

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 主任エコノミスト 新家 義貴
 TEL : 03-5221-4528

原数値	景気の現状判断(方向性)				景気の先行き判断(方向性)				景気の現状判断(水準)					
	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連		
08年	4	35.5	35.6	35.9	33.6	36.1	36.3	36.4	34.4	33.0	32.4	34.5	34.3	
	5	32.1	32.0	32.6	31.9	35.1	35.6	33.3	35.2	29.6	28.7	31.0	32.1	
	6	29.5	29.3	31.4	26.4	32.1	31.8	32.8	31.8	27.7	26.9	30.0	28.0	
	7	29.3	30.6	27.7	24.1	30.8	30.7	32.1	28.0	28.5	29.3	27.9	24.9	
	8	28.3	28.8	28.1	26.0	32.0	32.5	31.8	29.3	25.5	25.7	25.6	24.5	
	9	28.0	28.4	27.8	25.9	32.1	32.8	30.7	31.1	24.6	24.7	25.0	23.4	
	10	22.6	23.2	22.4	19.6	25.2	26.8	23.1	19.6	21.8	22.0	22.0	20.0	
	11	21.0	22.5	19.2	15.7	24.7	25.9	22.9	20.7	18.9	19.9	18.0	14.3	
	12	15.9	18.2	12.4	8.5	17.6	19.3	14.5	13.3	15.3	17.2	13.1	7.9	
	09年	1	17.1	19.0	14.6	10.1	22.1	24.2	19.3	14.9	14.6	16.1	12.8	8.3
		2	19.4	21.5	16.7	11.9	26.5	28.2	24.5	19.6	14.7	16.8	11.5	8.5
		3	28.4	30.0	27.2	20.1	35.8	36.8	36.0	29.3	19.0	21.4	15.9	10.6
4		34.2	35.7	33.7	25.6	39.7	40.7	38.9	34.4	21.6	24.0	19.6	10.1	

季節調整値	景気の現状判断(方向性)									
	DI				前月差					
	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連		家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連			
08年	4	33.4	33.6	33.5	31.5	-1.0	-0.6	-0.5	-2.5	
	5	31.7	31.4	32.7	32.4	-1.6	-2.2	-0.9	1.0	
	6	29.8	29.6	31.2	27.2	-2.0	-1.8	-1.5	-5.2	
	7	29.5	30.8	27.0	23.9	-0.3	1.2	-4.2	-3.3	
	8	28.0	28.5	28.3	25.2	-1.4	-2.4	1.2	1.2	
	9	27.9	28.6	27.3	24.5	-0.1	0.1	-1.0	-0.7	
	10	22.9	23.7	22.4	19.4	-5.0	-5.0	-4.9	-5.1	
	11	21.5	22.9	19.5	15.8	-1.4	-0.8	-2.9	-3.5	
	12	16.4	18.7	12.9	9.3	-5.0	-4.3	-6.6	-6.5	
	09年	1	18.5	20.6	16.3	11.0	2.0	1.9	3.4	1.8
		2	19.7	21.9	16.8	12.1	1.2	1.4	0.6	1.1
		3	26.4	27.3	25.7	19.1	6.7	5.4	8.9	7.0
4		32.0	33.7	31.4	23.7	5.6	6.3	5.7	4.6	

(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」より第一生命経済研究所試算

○ 順調に改善

4月の景気ウォッチャー調査は、現状判断DI(方向性)が34.2と前月から+5.8ポイント改善、先行き判断DIも39.7と前月から+3.9ポイント改善した。ともに4ヶ月連続の改善である。なお、季節性を排除するために季節調整をかけた場合でも、同様に改善している。この結果、内閣府は「景気の現状は厳しいものの、このところ悪化に歯止めがかかりつつある」と、3カ月連続で判断を上方修正している。なお、今回の調査期間は4月25日~30日である。

このところのDI改善ペースは比較的速く、DIのレベルも、リーマンショック以前である08年前半頃にまで戻っている。景気ウォッチャー調査における企業部門の結果は鉱工業生産に先行する傾向があることを考えると、この先の生産の持ち直しペースは意外に速いものになる可能性があるかもしれない。

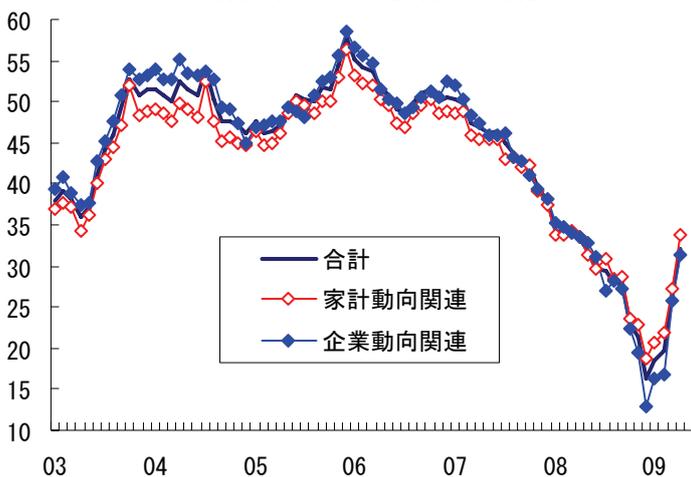
○ 定額給付金等の経済対策効果と在庫調整の進展がD Iを押し上げ

D I改善の背景にあるのは、経済対策効果と在庫調整の進展である。家計部門では、「定額給付金の給付とそれに合わせたプレミアム付き商品券の販売により、販売量が上がった」、「高速道路料金引下げの影響で、土日、特に日曜日の来客数がかなり増えている」、「環境対応車に対する優遇税制や補助金などの政策によって、客の購入意欲が一時期よりも高まっている」といったコメントがみられており、経済対策の実施が一定の効果を上げていることが窺える。「今月は開店以来最低の売上になった」など、厳しいコメントも依然として多いが、数か月前と比べれば明らかなコメントが増えている。個人消費は悪化が続いていたが、経済対策効果によって4-6月期には一時的に持ち直す可能性があるだろう。なお、省エネ家電に対するエコポイント制度については、足元で買い控えが起こっているとのコメントがみられる。また、先行きについて、新型インフルエンザの悪影響を懸念する声もあった。

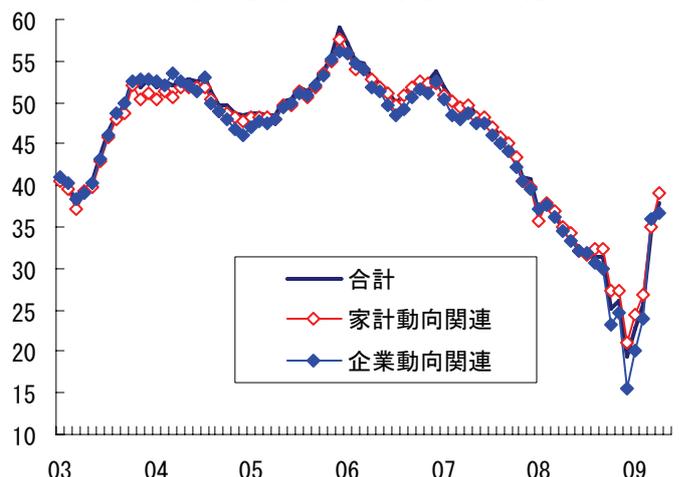
企業部門についても、「これまで赤字を経験したことがない取引先でも赤字に転落しており、経営者は危機感を持っている」、「計画中の設備投資計画のうち、主に製造業において工事の凍結、先送りが顕著となり、受注環境が一段と厳しさを増してきた」、「受注量は前年同月の8割ほどに落ち込んでいる」など、厳しい業況を示すコメントが引き続き多いが、「減産は徐々に解消しつつある」、「製造業の急速な在庫調整の一巡により、一部では生産は緩やかに増加する見込み」といった、比較的明らかなコメントも散見されるようになっている。先行きについても、受注の持ち直しを指摘するコメント等がいくつかみられた。水準が極めて低い状況に変化はないが、方向性でみれば幾分上向きつつあるようだ。

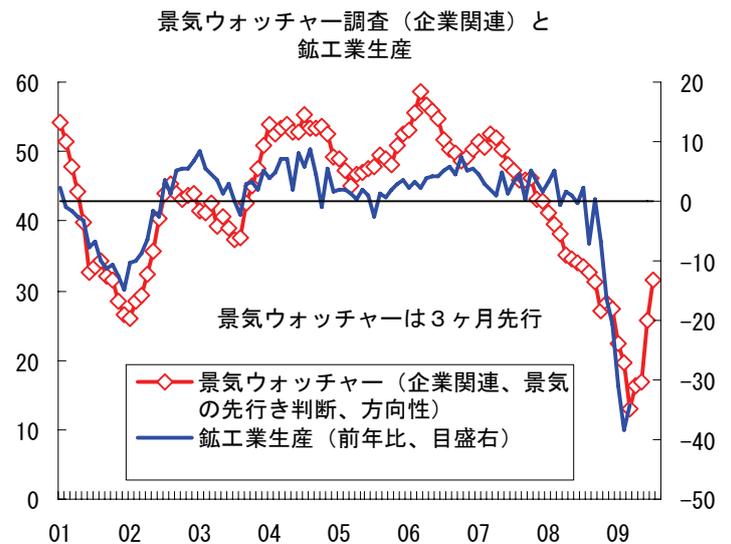
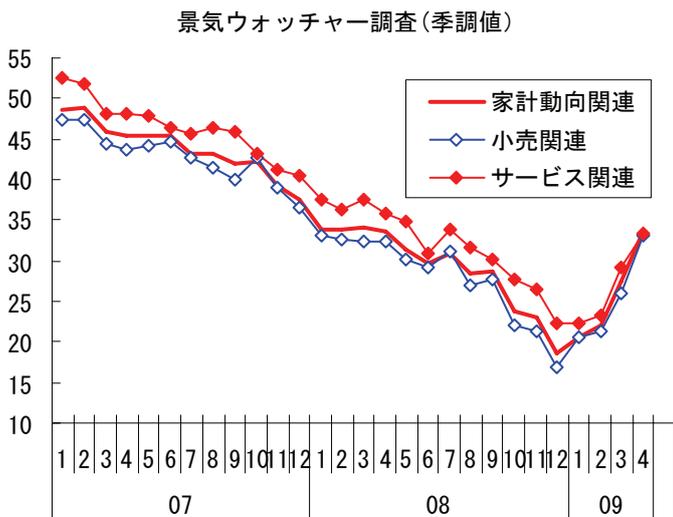
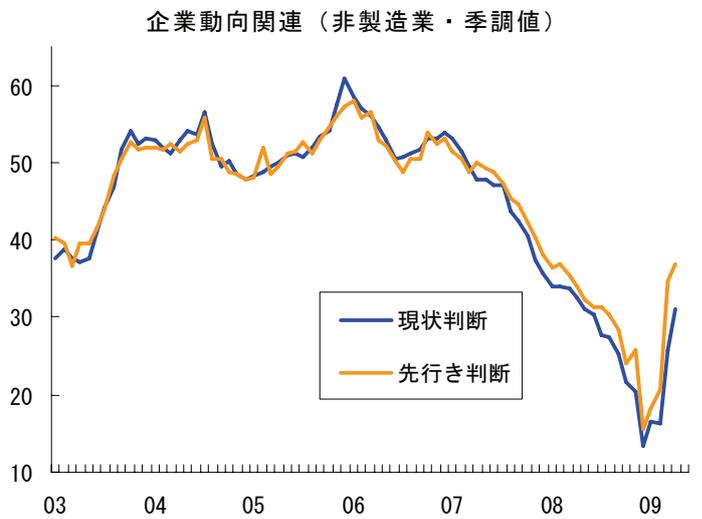
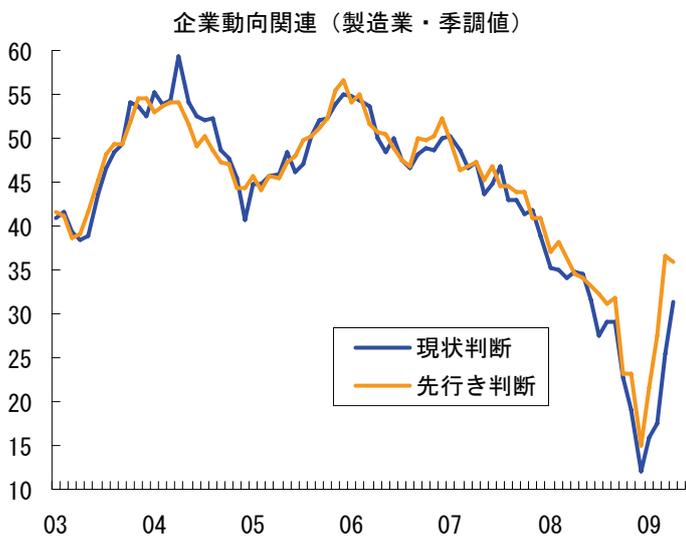
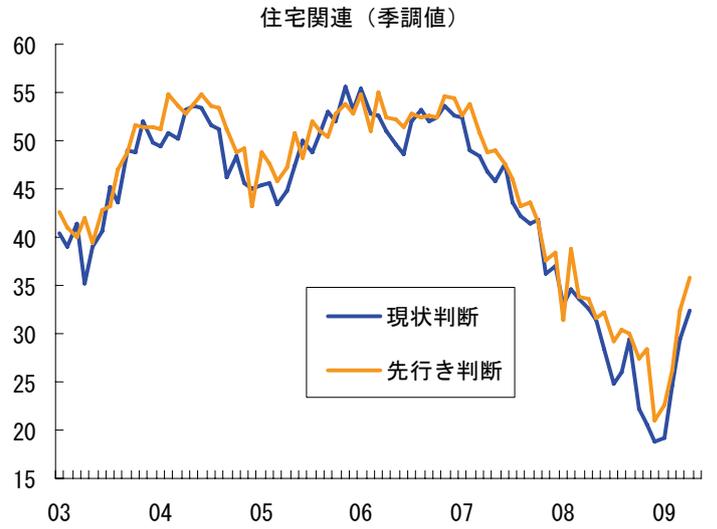
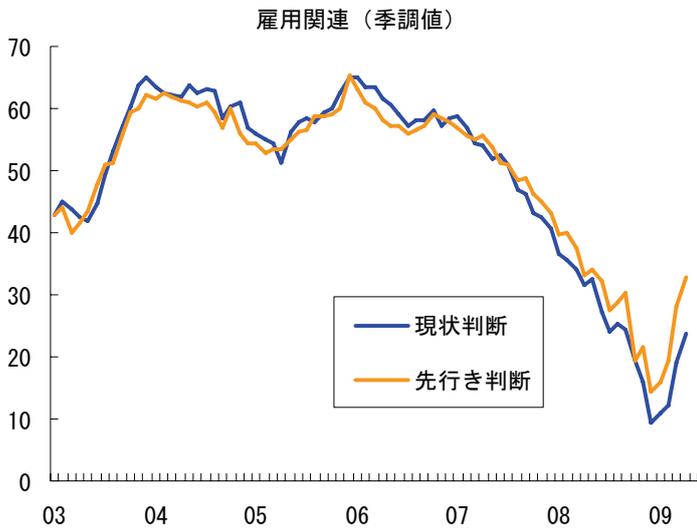
また、雇用関連のD Iも、4ヶ月連続で改善している。雇用環境の悪化が続いていることからすると違和感のある結果だが、先行きどうなるか分からないという過度の不安感は多少和らぎつつあるのかもしれない。ウォッチャーのコメントは、「求人数が激減し、求職者は増える一方である」など、暗いものがほとんどだが、「企業の生産調整は一段落していると見られ、一部の企業からは派遣の注文もある」と、限界的な変化を指摘する声もあった。

景気の現状判断D I（方向性、季調値）



景気の先行き判断D I（方向性、季調値）





本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。